



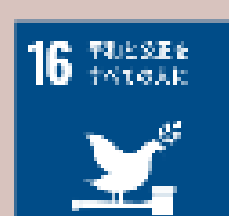
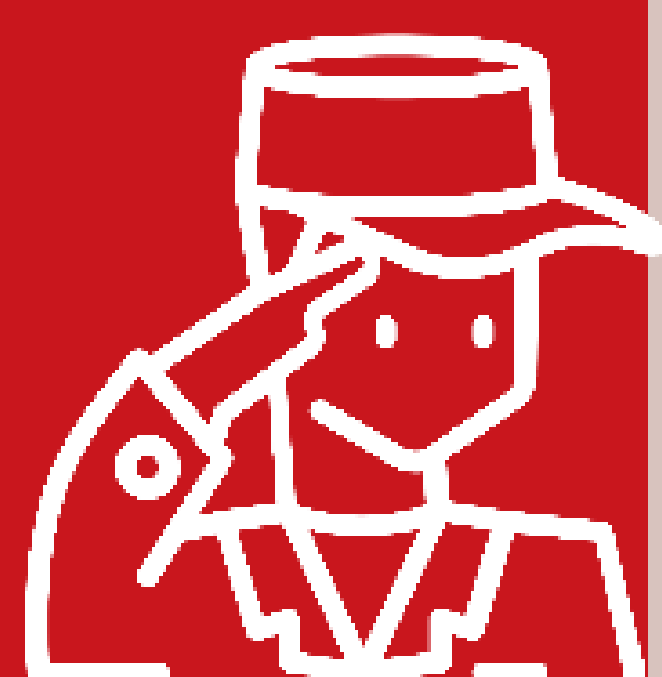
# 戦争の記憶から未来を考える

— シベリア抑留の記憶と継承をめぐる研究 —

ビコーニャ・アリナ

北海道大学 大学院 文学院

映像・現代文化研究室



## 未来社会のあるべきかたち

- ◆ 歴史を批判的に考え続ける社会
- ◆ 過去から学び、対話を続ける社会
- ◆ 記憶を未来へつなぐ社会

体験者が高齢化する現在、  
戦争の記憶をどのように継承するかが  
大きな課題となっている

第二次世界大戦終結後、旧ソ連や  
モンゴルにおける抑留と強制労働の  
経験は、多くの人々の人生に大き  
な影響を与えました。

この歴史的経験そのものではなく、  
それが戦後日本社会でどのように記  
憶されてきたのかを研究しています。

## 研究課題

シベリア抑留の多様な記憶と表  
象を分析し、それが戦後日本社  
会でどのように語られ、継承さ  
れてきたのかを明らかにする。



歴史的経験



個人の証言



博物館・市民団体  
文学・メディア等



集合的記憶



集合的記憶



未来への継承



多様な経験と表現

トラウマ体験は、証言・  
文学・芸術の中でどの  
ように語られているか



社会的言説

何が強調され、何が語  
られにくく  
なっているか



保存・活用・継承

記憶は誰によって、ど  
のような形で次世代へ  
伝えられているか

社会  
への  
貢  
献



戦争の記憶を継承する



歴史教育への活用



国境を越えた歴史対話

## 本研究が問い直すこと

記憶は、過去をそのまま保  
存するものではなく、  
社会の中で選択され、  
再構成される。